

むくのきだより 2月号



令和4年1月31日 港区立赤羽幼稚園 園長 宮崎 直人

日本の伝統文化や自然を生かした遊び

園長 宮崎 直人

節分・立春が間近になり、暦の上では春が近付いてきていますが、厳しい寒さが続いているこの頃です。年明けから新型コロナウイルスが猛威を振るっています。赤羽幼稚園では、引き続き、手洗いや換気などに気を付けながら、感染症の予防を徹底してまいります。

保護者の皆様には、12月に実施しました、「幼稚園評価アンケート」へのご協力をありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、教育活動等の改善・充実を図ってまいります。アンケートの集計結果については、内容がまとまり次第、お伝えする予定です。

さて、1月は、「正月遊び」をきっかけとして、こま回しやけん玉、凧揚げなど様々な昔遊びに触れ、日本の伝統文化に親しんでいます。また、寒い季節ならではの冬の自然に親しむ活動も行っています。

【昔遊び】こま回し、凧揚げ、カルタ等、昔から伝わる遊びを楽しんでいます。

<こま回し・凧あげ>

12月から遊び始めました。年少組は引きごま、年長組は投げごまに取り組み、まずは紐を巻くこと、そして回すこと、色々な回し方で回すこと、など繰り返し挑戦しています。色を塗ったり、数人で勝負をしたりして楽しんでいます。年長組では、手のひらほどの大きなこまに挑戦している子もいます。

凧はビニールや竹ひご、レジ袋などを使って自分の凧を作りました。小学校の校庭で、スピードをつけて走ると、ふわっと上がります。皆、夢中になって走っています。



<カルタ・絵合わせ・羽根つきなど>

カルタなどで遊びながら、文字や言葉への関心が少しずつ高まっています。年長組では、幼児同士誘い合って楽しむ姿も見られます。

羽根つきは、なかなか難しい遊びです。雲梯にぶら下げた羽根を打ったり、面積が広いお手製の羽子板で遊んだりしながら楽しんでいます。



<けん玉・竹馬>

1月の誕生会で、私が紹介した「けん玉」に興味をもって取り組む姿が見られました。見事に大皿に載せることができた子もいます。そして、清水先生が見せてくれた竹馬も、興味をもって楽しんでいました。うまくバランスを取って歩けるようになってきました。



【冬の自然に親しむ活動】氷や霜柱を見つけて、楽しく遊びました。

<氷・霜柱>

とても寒い朝、幼稚園のベランダから、小学校のプールに氷が張っているのを子供たちが見つけました。早速一緒に取りに行き、取った氷でたくさん遊びました。氷を砕いてごちそうにして、ごっこ遊びをする姿もありました。

登園時にお家の方と一緒に、中校庭で見つけた霜柱を持ってきた子もいました。年長組に教えてもらって、年少組もみんなで見に行き、たくさん集めて掌にのせたり、足で踏んで、サクサクする感触を楽しんだりしました。



昔遊びの様子を見ていると、子供たちは、粘り強く、できるまで練習を繰り返しています。そして、できるようになったときの喜びはひとしおのようです。昔遊びに取り組むことを通して、少し難しいことでも「やってみよう」とする気持ちや、なかなかできなくても「あきらめない」気持ちなどが育まれていきます。最初は偶然「できた！」となることも、練習を重ねると、どんどん上達していきます。諦めないで挑戦し、できるようになる喜びや達成感を味わうことは、今後また新たな取組をする際に、「やってみよう」「あきらめない」という気持ちで取り組む姿勢につながります。

冬の自然に親しむ活動では、氷や霜柱に触れることを通して、冬ならではの自然現象を知ったり、「氷や霜柱がなぜできるのか」に疑問をもち、子供たちなりに考えたりする姿が見られました。年長ゆり組では、「どうしたら氷はできるのか」を数日に渡って話し合い、「今日はここで試してみよう」と水を張った容器を園庭のあちこちに置いています。

このように、子供たちは、生活や身近な遊びを通して、身の回りの出来事に関心をもち、友達と協力し合い、工夫しながら、多くのことを学んでいることが分かります。このような経験の積み重ねが、小学生での各教科の学習への興味・関心や探究心につながっていくことを実感しています。赤羽幼稚園では、これからも、子供たちの自発的な活動としての遊びを大切にして、子供たちが主体的に身近な自然や人に積極的に関わり、知的な気付きや豊かな心を育むための教育を推進してまいります。

